

ジャンボ枝アメ華やかに

秋田職能短大 学生ら20本飾り付け

大館市の秋田職業能力開発短期大学校（後藤康孝校長）に通う学生と教職員約40人が10、11日・おおまちハチ公通



立てたミズキの枝に縁起札を結ぶ学生たち
(秋田職能短大)

りのジャンボ枝アメ作りに挑戦した。地域の風物詩に理解を深め、20本を完成させた。ジャンボ枝アメは、ミズキの枝に縁起札と黄や緑、ピンクの3色のアメ玉約400個を結び付けたもの。会場や公共施設に計55本を設置する計画で、同校がボランティアで20本を引き受けた。

体育館で飾り付けが行われ、学生たちが約2時間、アメを金色のひもで一つずつ丁寧に結んだ。両手で木の幹を持ち上げている間に、縁起札をバランスよく配置するグループもいて協力し合っていた。

秋田市出身の奈良岡海誠さん（1年）は中学時代に1年余り大館に住んだ経験があり、「アメッコ市は寒くて人気が多かったことを覚えていた。懐かしい。作業を通して「枝アメがこうして作られていることがよく分かった。地域の活性化に貢献できてうれしい」と話した。

アメッコ市は1588（天正16）年に始まったとされ、「この日にアメを食べると風邪をひかない」という言い伝えが残る。